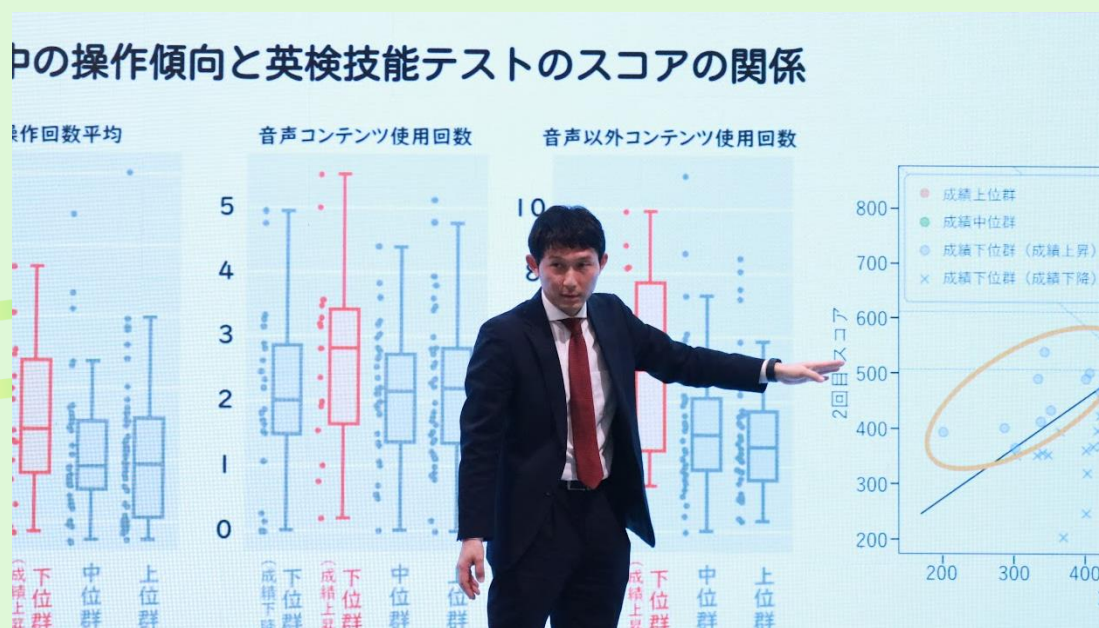


学習者用デジタル教科書はもっと活用できる! ～東京書籍がワークショップを開催!～

#学習者用デジタル教科書 #ワークショップ #小学算数 #中学英語



デジタル教科書の効果の説明をする DX 企画部の清遠さん

東京書籍とフューチャーインスティテュート株式会社が主催する（後援：TOPPAN ホールディングス株式会社）、学習者用デジタル教科書を効果的に活用するためのワークショップが、2024年12月26日に東京都文京区のTOPPAN 小石川本社ビル2階 WAO で行われました。

令和6年度から学習者用デジタル教科書の本格的な導入が始まり、小中学校英語については全校で、算数・数学については小学校5年から中学校3年までの約半数の学校において学習者用デジタル教科書が無償提供されています。一方で、使い方に関して「どのように使えばよいのか分からない」「使いたいけどまだ触ったことがない」という先生方の声があるのも事実。今回、そのような声に応えるべく、当社一丸となって学習者用デジタル教科書体験ワークショップを開催！ 数学・英語編集部と ICT 制作部、DX 営業部のメンバーが操作の補助や教材の紹介を行いました。生まれた疑問はその場で解決し、生まれたアイデアは参加者全員で共有して、学習者用デジタル教科書のさらなる活用を目指しました。

プログラムは午前が小学算数、午後が中学英語の二部制。各回共通で、冒頭に東京書籍 DX 企画部の清遠さんから学習者用デジタル教科書の活用事例紹介や人気コンテンツ紹介が行われました。

～午前の部【小学算数】：「昔、トイレットペーパーを切って見せた苦労が嘘のようです」～

午前の小学算数では、まず DX 企画部の清遠さんから学習者用デジタル教科書の機能・活用事例紹介が行われました。学習者用デジタル教科書の基本的な機能としては、

- ・拡大
- ・読み上げ
- ・書き込み
- ・デジタルコンテンツとの一体的な活用

などがあるとのこと。

基本的な機能を踏まえたうえで、つづく活用事例紹介では、学習者用デジタル教科書の機能の一つであるスクリーンショットを活用した共有について紹介がありました。授業の中で出た意見や感想を、児童一人ひとりの ICT 端末を通じて共有することで、リアルタイムかつ効率的に共有が可能に。先生はもちろん、児童にとってもみんなが何を考えているのかが、即時かつ簡単にわかりやすくなります。紙に書いて回収する時間がなくなり、紙面に書いてあるものをそのまま共有した方が伝わりやすいといった場合にもぴったりの機能です。

ランキング形式で行われた人気コンテンツの紹介でピックアップしたのが、第2学年で5位だった「九九ができるものをれんしゅうしよう」。これまで九九の学習をするときには、教科書の付録や先生自身で作成した紙のカードなどを使って指導をすることが多かったそうですが、紙だとクラス全員分の準備が大変なことや失くしてしまうこともあり、先生にとって負担が大きいという状況がありました。このコンテンツを活用することで、準備時間の削減にもつながり、紛失してしまうことも解決できることからよく使っていたらいいそうです。

清遠さんから一通りの説明が終わった後には、実際に学習者用デジタル教科書を触ってみるワークショップが始まりました。先生方は、説明にあった機能をすぐに試したり、人気コンテンツについてより詳しい使い方を質問したりしていました。参加者同士でも使い方についてお互いにアドバイスをし合っている様子も見られました。



ワークショップ内で出た感想は、掲示板アプリ「Padlet」で共有。参加者は<授業アイデア> <イチオシ機能> <改善アイデア>の観点で、思いついたことを自由に「Padlet」へ書き込みました。
一例として、以下のようなものがあがりました。

2年生の数の単位の学習では
各児童がデジタルコンテンツを使って、考え方を書き込み、スクショを送って考え方を共有しています。数カードを動かした様子を手軽に書きこんで共有できることが子供たちは扱いやすそうでした。

ロイロノートに落とし込んで使っています
私もよくやります。教科書SCANがあるかないかが違うので、便利ですよ

低学年の授業で・・・
低学年の授業では、図を描いて考えながら問題を解く、時間で区切り、解いたところまでを先生に共有させることができるのが麗きでした。→①図を描ける低学力にも対応②どこで躓いたかがすぐに先生に一覧で共有で確認できる。

個別指導に対応しながら、流しっぱなしで！
動画をひたすら流しながら、児童に個別に対応しました。この機能、現場で大変活用できます。何回流すと回数が決められたり、動画コンテンツをカスタムできたらいいな。

円の面積
平行四辺形に変形するのはよくあるが、三角形に変形するバージョンもあるのが素晴らしい。昔、トイレットペーパーを切って見せた苦労が嘘のようです。

たくさん解きたい児童たちから...
サクサクこなす児童たちからは、問題数を見て一覧で取り組むやり方を好んでいるようです。次の問題の間の余白が少し広いといいなあ。。とのこと。(私も同じく！)

QRコンテンツ内のスクショ
タブレット本体のスクショ機能を使えばよいかもしれないが、画面上にスクショできるボタンがあると、子供達が操作しやすそうと感じました。

プログラミング体験ができる
プラス機能で、プログラミング（スクラッチ）にとぶことができる。教科とつながれることはありがたい。

講評

「学習者用デジタル教科書の活用については、クラスの実態によっても異なるし、先生によっても様々なので方法は一つではありません。デジタルはあくまで手段の一つ。具体物での操作などが大事な場面もありますので、先生独自の活用方法を見つけてみてください。」

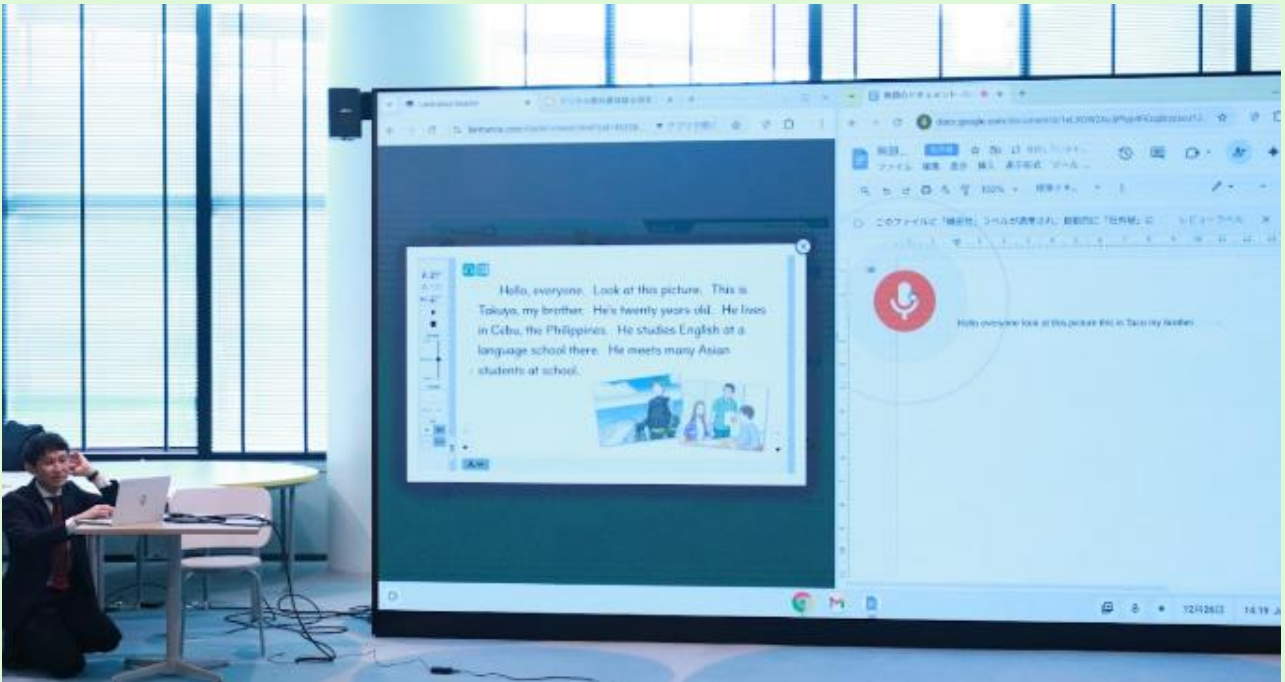
数学編集部小学算数編集長の小林さん



～午後の部【中学英語】コンテンツが多いかなと思ったけど・・・～

午後の中学英語でも、小学算数と同様にDX企画部の清遠さんから学習者用デジタル教科書の機能・活用事例紹介が行われました。

学習者用デジタル教科書の基本機能の説明後、学習者用デジタル教科書とGoogleドキュメントの組み合わせによる実演紹介がありました。



ブラウザのタブを分割して、教科書紙面とGoogleドキュメントを並べて表示。教科書本文を読み上げている自分の声をGoogleドキュメントの音声入力機能で拾い、自分の英語の発音が正しくできているのか確かめるといったものです。

「授業中にクラスメートと発音練習をするのが恥ずかしいという生徒でもやっています」という現場の声があるそうです。紙の教科書だけではできなかったことも、デジタルの機能を活用することで学びの可能性が広がります。



清遠さんからの説明後、ワークショップが行われました。中学英語でも掲示板アプリ「Padlet」を使い、<授業アイデア> <イチオシ機能> <質問> <改善アイデア>の観点で、参加者が思いついたことをこちらへ書き込む形で共有が行われました。

一例として、以下のようなものがあがりました。

The screenshot shows a Padlet board with several posts:

- Pair Dictation2024**: A post with a photo of a student at a computer and a list of four steps for a dictation activity using digital textbooks and AI.
- デジタル教科書+タブドリイブ**: A post featuring a colorful graphic for 'Live型ドリル教材! タブドリ' and text about using TabDriLive for digital textbooks.
- Count機能**: A post discussing the usefulness of counting audio playback times.
- 音読練習の表示について**: A post about audio reading practice displays, mentioning features like highlighting and playback speed.
- 新出単語**: A post about new vocabulary words in digital textbooks.
- R7版のデジタル教科書**: A post expressing interest in the R7 version of digital textbooks.
- Confident Dragonfly**: A post with a link to a story slide presentation.
- Listening**: A post asking for individual listening materials for students.
- 拡大&書き込み機能**: A post about the zoom and annotation features of digital textbooks.

また、上記「Padlet」内に<授業アイデア>として書き込みのあった「辞書指導をどのようにしていますか」のコメントには同じ悩みを抱えている先生方が多かったことも特徴的でした。

デジタルが普及する一方で、出番が減っている紙の辞書の指導について悩まれている先生方が多くいらっしゃるようでした。先生方の辞書指導への取り組み状況として以下のような意見が出ました。

- ・「デジタルが普及してきていて辞書指導の時間は減っている。」
 - ・「何かを調べる時に一旦ネット検索だけで作ってもらう。それを見直して生徒自身に間違いを認識してもらえたらそれが紙の辞書を使って調べることのきっかけになる。」
 - ・「ライティングテストの時に紙の辞書を使っていいことにしている。」
- このようにすぐに意見を共有できるのもデジタルならではの利点ですね。

このような現状を伺ったうえで、英語編集部から令和7年度版の学習者用デジタル教科書からアクセスできるコンテンツとして搭載している「NEW HORIZON 用例辞典」の紹介が行われました。こちらを活用すれば教科書の本文から、用例検索が行えるとのことで、先生方からは「こういうものが欲しかったです」という声が多くあがっていました。



講評

「この時間で紹介したもの以外にも、学習者用デジタル教科書には様々な機能やコンテンツがあります。今日のように実際にデジタル教科書を体験していただくと「子どもたちのやる気やモチベーションに繋がるものがたくさんあるので使いこなしたい!」という声をいただくことが多いです。ぜひ色々と試していただけたらと思います。」

英語編集部中学英語編集長の城戸さん

～たくさんある機能は、使わないともったいない!～

終了後、DX 企画部の清遠さんにこのワークショップ開催のねらいを聞くと、「今回のワークショップは『まずは学習者用デジタル教科書に触って、その良さを体験していただく』ことを目的として開催したもので、体験と意見交換の時間を多く取るようにしました。」とのことでした。

また、同じく主催のフューチャーインスティテュートの為田様は、「学習者用デジタル教科書の導入が始まり、先生にとっても子どもたちにとっても、一人ひとりにあった形のものを使える環境ができました。決してデジタルツールを使ってすごいものを作る必要はありません。広がった可能性をぜひ活用していただけたらと思います。せっかくあるなら使わないともったいないですね。」とアドバイスをくれました。

学習者用デジタル教科書の導入が始まりましたが、活用においてはまだこれからのようです。発行者としても、作って終わるのではなく、今回のような形で今後も使っていただく方へのサポートも充実させていきたいと思っています。

なお、下記のサイトでも東京書籍の学習者用デジタル教科書の使い方や活用方法などを掲載していますので、ぜひご活用ください。

*東京書籍 ICT 商品トップ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp/ict/>

*令和6年度小学校教科書のご案内

算数 資料ダウンロード <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/download/sansu/>

*NEW HORIZON えいごのひろば <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/spl/eigo/>